

第61期 第2四半期決算のご報告

2018年4月1日から2018年9月30日まで

株主通信

CONTENTS

- 1 株主の皆様へ
- 2 トピックス
- 3 セグメント別業績
- 5 連結決算ハイライト
- 7 四半期連結財務諸表
- 9 会社の概要



株式会社 丸順

証券コード：3422

株主の皆様へ

ご挨拶



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび当社第61期第2四半期（2018年4月1日から2018年9月30日まで）を終了いたしましたので、営業概況及び第2四半期決算のご報告を申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年11月

代表取締役社長 **齊藤 浩**

連結業績の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では政策動向や通商問題等の懸念はあるものの、良好な雇用・所得環境や所得税減税政策を背景に個人消費が増加となったほか、税制改革や歳出上限の引き上げによる政府支出の増加により着実な景気回復を続けております。欧州では、機械設備投資の増加及び個人消費が底堅く推移し緩やかな回復を維持しております。中国では、米中貿易摩擦の懸念はあるものの、個人所得の着実な上昇を背景に消費が堅調に推移したことにより景気を持ち直しがみられ、日本では雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が回復基調となったほか、人手不足を背景とした合理化・省力化投資を中心に設備投資が増加し、緩やかな回復を継続しております。

当社グループが属する自動車業界においては、タイでは、新型モデルの市場投入に加え、景気回復も追い風となり、新車販売台数は堅調に推移しております。中国では、SUV（スポーツ用多目的車）の販売台数の伸びが鈍化したものの、近年減少傾向にあった乗用車が回復基調となったほか、政府の積極的な支援策もあり、新エネルギー車の生産・販売は堅調に推移しております。日本では、新型車投入の減少により小型車が低迷したものの、安全運転支援システムの搭載車種が拡充された軽自動車の販売が堅調に推移し、国内新車販売台数は順調に推移しております。

このような状況のもと、当社グループは、当連結会計年度を初年度とする中長期5か年計画をスタートさせ、競争力基盤の確立及び財務体質の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、23,985百万円（前年同四半期比3.7%増）、営業利益は2,309百万円（前年同四半期比36.8%増）、経常利益は1,916百万円（前年同四半期比99.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,179百万円（前年同四半期比326.2%増）となりました。

なお、前連結会計年度より、株式会社ホンダ四輪販売丸順は連結範囲から除外されております。

また、当期の中間配当につきましては、前期に引き続き無配とさせていただきます。期末配当につきましては1株につき3円を予定しております。ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

トピックス

Topics

1

広州丸順社 スマート倉庫の稼働開始

広州丸順社では、2018年8月にスマート倉庫の稼働を開始しました。当社グループは、中長期5か年計画を公表し、基本戦略の1つとして「全ての業務の管理手法（見える化）再構築とシステム化」を掲げ、スマート倉庫のグローバル展開を図っております。

広州丸順社は、収益・企業規模等様々な面で当社グループを支える重要な拠点であり、導入されたスマート倉庫もグループ内で最大級の収容量となっております。また、在庫状況の見える化及び基幹システムとの連携により、日々の生産計画で必要な部品を自動出庫することで、物流改善（レイアウト・人員配置・物流ルート等の最適化）に寄与しております。

なお、武漢丸順社についても2019年内での導入を予定しており、丸順グループ全拠点への導入により更なる生産・物流の改善・効率化を強力に推進してまいります。



Topics

2

日本丸順 NC加工機の導入

日本丸順の金型事業において、大型NC（数値制御）加工機を2018年7月に導入しました。同設備は最新鋭の高速・高精度な加工技術を有し、自動化の推進及び稼働率の向上により、原価低減に貢献しております。金型事業は、中長期5か年計画において戦略事業（成長ドライバー）と位置づけ、グローバルでの金型事業の強化・拡大を目指しており、同設備の導入により、売上高の拡大に対応してまいります。

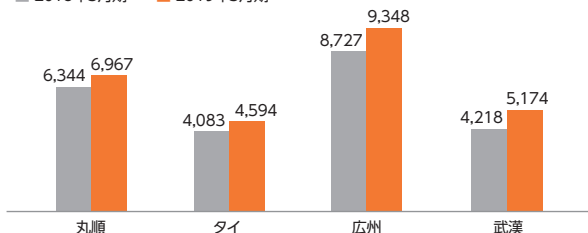


セグメント別業績

セグメント別売上高 (第2四半期)

(単位:百万円)

■ 2018年3月期 ■ 2019年3月期

丸順
【株式会社丸順】

増収増益

丸順においては、主要客先向け自動車部品の生産が増加したほか、エンジニアリング事業における専用設備の販売増加により、売上高は増加いたしました。また、生産効率改善による労務費削減並びに購入費及び経費等の削減の取組みに加え、鈴鹿工場における生産部品増加に伴う輸送荷姿改善の取組みにより原価低減となったほか、海外子会社からの受取配当金増加による営業外収益の増加により、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は6,967百万円（前年同四半期比9.8%増）、経常利益は1,079百万円（前年同四半期比111.3%増）となりました。

タイ
【タイ・マルジュン社】

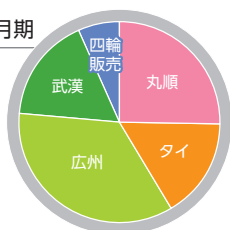
増収増益

タイにおいては、主要客先の増産及び専用設備の販売拡大により、売上高は増加いたしました。また、業務効率改善等の取組みによる固定費削減及び経費削減の取組みにより製造原価が低減となったほか、量産車種終了に伴い金型投資費用の未回収分を客先より回収したことにより、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は4,594百万円（前年同四半期比12.5%増）、経常利益は215百万円（前年同四半期は208百万円の経常損失）となりました。

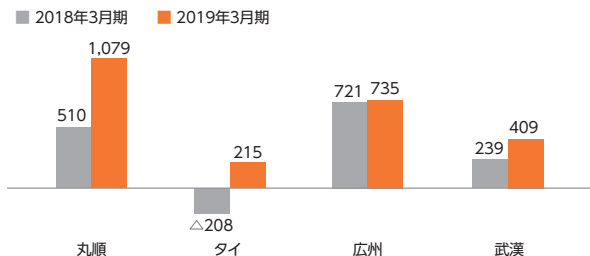
〈セグメント別売上高構成比率〉

2018年3月期



セグメント別経常損益 (第2四半期)

(単位:百万円)



増収増益

〔広州丸順汽车配件有限公司〕
広州

広州においては、エンジニアリング事業における専用設備の販売が減少したものの、部品事業での主要客先の増産等により、売上高は増加いたしました。また、新型車立ち上がりに伴い品質コストが上昇したものの、生産効率改善による要員適正化及び設備投資抑制の継続的な取組みにより固定費が低減し、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は9,348百万円（前年同四半期比7.1%増）、経常利益は735百万円（前年同四半期比1.9%増）となりました。

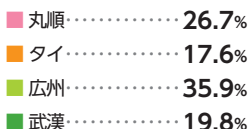
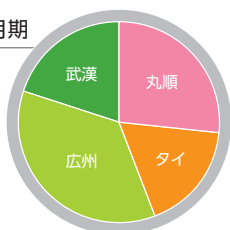
増収増益

〔武漢丸順汽车配件有限公司〕
武漢

武漢においては、主要客先の増産影響により売上高は増加いたしました。また、材料及び購入部品等の購入費削減のほか、品質安定化の取組みにより製造原価が低減し、利益は増加いたしました。

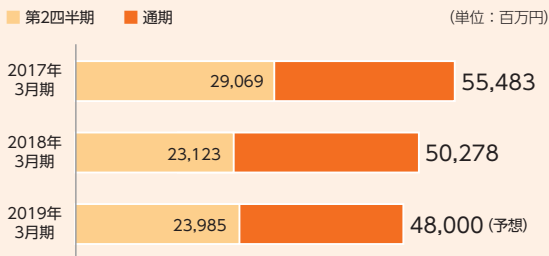
以上の結果、売上高は5,174百万円（前年同四半期比22.7%増）、経常利益は409百万円（前年同四半期比71.2%増）となりました。

2019年3月期

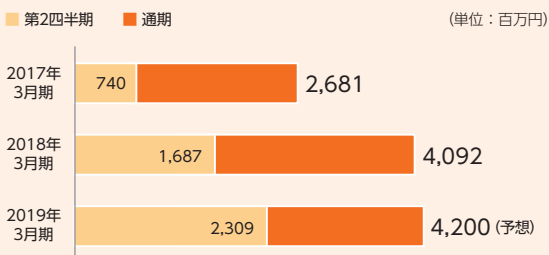


連結決算ハイライト

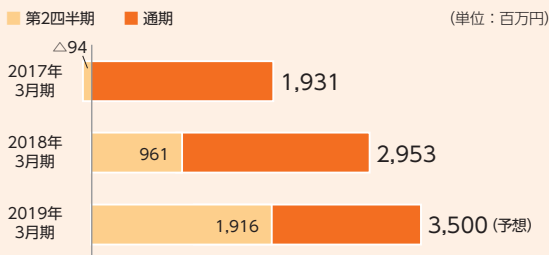
売上高

23,985百万円 • 前年同四半期比 

営業利益

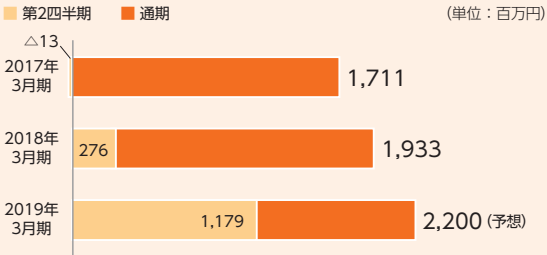
2,309百万円 • 前年同四半期比 

経常利益

1,916百万円 • 前年同四半期比 

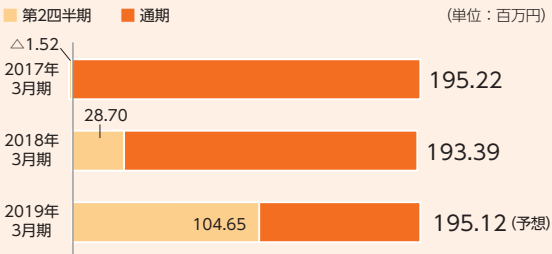
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

1,179百万円 • 前年同四半期比 ▲



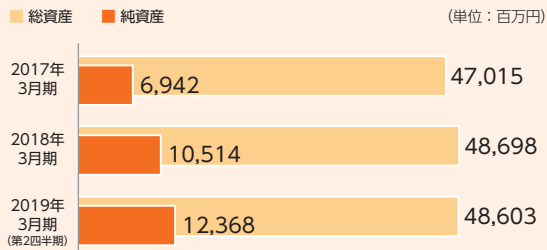
1株当たり親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

104.65円 • 前年同四半期比 ▲



総資産・純資産

48,603百万円 • 12,368百万円

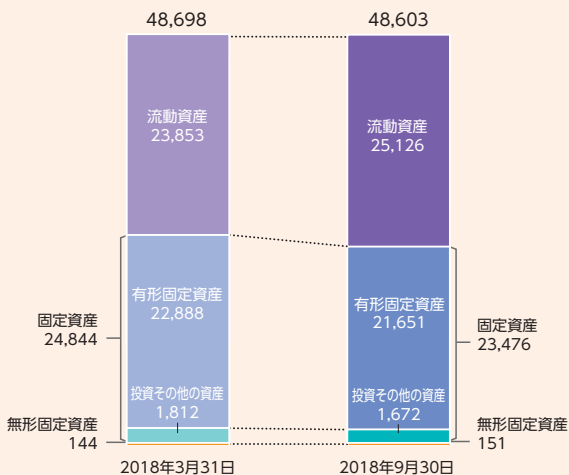


四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (要旨)

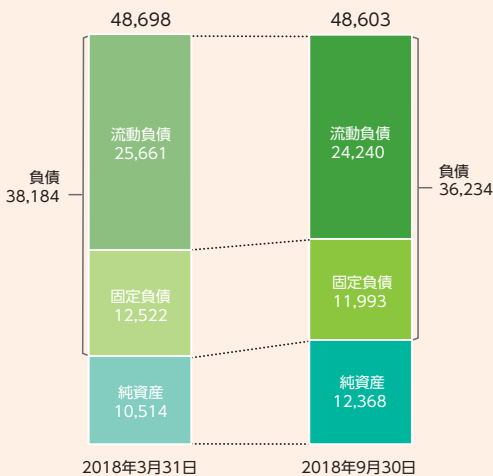
資産の部

(単位：百万円)



負債・純資産の部

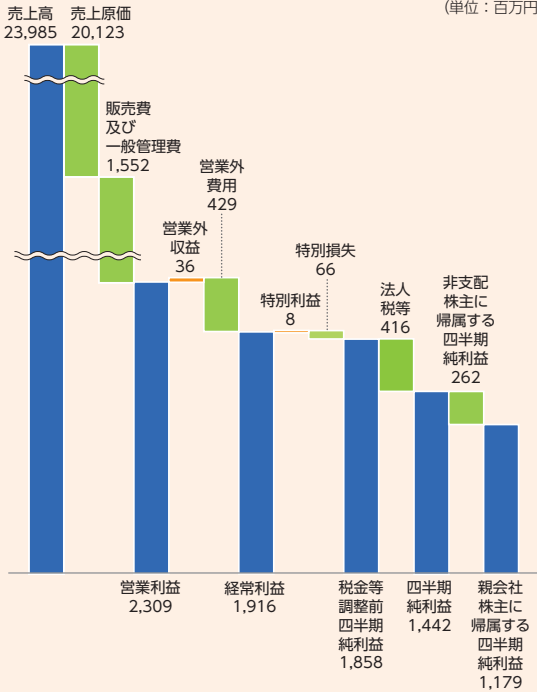
(単位：百万円)



四半期連結損益計算書 (要旨)

2018年4月1日～2018年9月30日

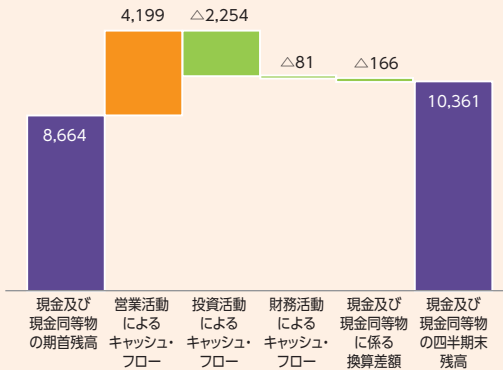
(単位：百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

2018年4月1日～2018年9月30日

(単位：百万円)



会社の概要 (2018年9月30日現在)

会社概況

商号

株式会社 丸順
(英文社名: MARUJUN CO., LTD.)

創業

昭和27年7月
(創業者: 今川 順夫)

設立

昭和35年1月

資本金

1,950百万円

事業内容

自動車用車体プレス部品の製造
自動車用精密プレス部品の製造
各種金型の設計・製作
治具・検査具の設計・製作

従業員数

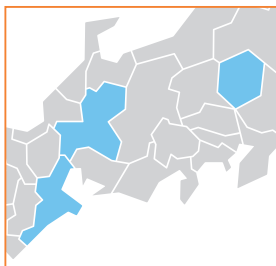
312名 (連結2,298名)

役員

代表取締役社長	齊藤 浩
常務取締役	青山 秀美
取締役	猪熊 篤俊
取締役	松井 恒夫
取締役	棚橋 哲郎
取締役	湯川 好春
取締役	上田 勝弘
常勤監査役	馬淵 仁
監査役	水谷 博之
監査役	堀田 政道
執行役員	山崎 英次
執行役員	森 和行

(注) 1.取締役 上田勝弘氏は、社外取締役であります。
2.常勤監査役 馬淵仁氏、監査役 水谷博之氏は、社外監査役であります。

事業拠点



本社・上石津工場

岐阜県大垣市上石津町乙坂130-1

浅西工場

岐阜県大垣市浅西3-22-22

養老工場

岐阜県大垣市上石津町牧田2947-1

鈴鹿工場

三重県鈴鹿市国府町7755
(株式会社日本陸送内)

栃木開発センター

栃木県宇都宮市ゆいの杜1-5-40
とちぎ産業交流センタービル202号室

広州丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国広東省広州市
広州経済技術開発区永和経済区
永盛路8号

武漢丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国湖北省武漢市
東湖新技術開発区光谷一路223号

タイ・マルジュン社(子会社)

NONG KHAE INDUSTRY ESTATE BAN
NONGSAMAK 62 MOO-6, KOKYAE, NONG
KHAE, SARABURI 18230, THAILAND

ベストックス・MM・インディア社(出資会社)

SPL-2B, TAPUKARA INDUSTRIAL AREA, KHUSHKHERA,
DISTT. ALWAR, RAJASTHAN-301707, INDIA

株式の状況

株式数及び株主数

発行可能株式総数

39,000,000株

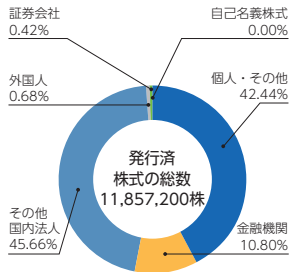
発行済株式の総数

11,857,200株
(自己株式172株含む)

株主数

2,698名

株式数構成比

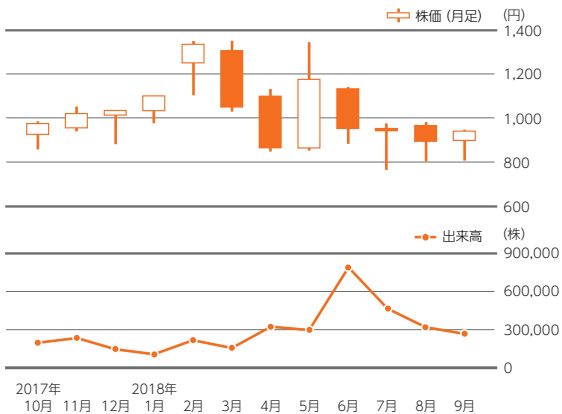


大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
東プレ株式会社	2,370,700	19.99
今川喜章	1,027,270	8.66
本田技研工業株式会社	988,950	8.34
今川順夫	477,870	4.03
太平洋工業株式会社	463,950	3.91
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	3.13
今村金属株式会社	336,400	2.84
株式会社三菱UFJ銀行	325,000	2.74
株式会社大垣共立銀行	300,000	2.53
有限会社イマガワ	300,000	2.53

(注) 当社は、自己株式172株を保有しております。持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株価チャート



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日 期末配当 中間配当	毎年3月31日 毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



ホームページ

株主・投資家情報をはじめとするIR情報から技術の紹介など様々な会社情報を随時掲載しております。ぜひ、当社ホームページをご覧ください。

当社ホームページURL

<http://www.marujun.co.jp/>

丸 順

検索



株式会社 丸順



本株主通信は、環境保全のため「植物油インキ」で印刷しています。